

# 医学教育分野別評価 秋田大学医学部医学科 年次報告書 2024（令和6）年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和3）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36

## はじめに

本学医学部医学科は、2021（令和3）年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022（令和4）年6月1日より7年間の認定期間が開始した。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 を踏まえ、2024年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2023（令和5）年4月1日～2024（令和6）年3月31日を対象としている。また、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.36 の転記は省略した。

## 領域 1. 使命と学修成果

### 1.1 使命

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・秋田大学の基本理念と基本的目標に基づいて、医学部の理念と医学科の目標が定められ、明示されている。
<b>改善のための助言</b>
・使命の中に生涯学習への継続について、教員や学生など教育の主要な構成者がより理解しやすいように明記すべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・基礎・社会医学談話会(令和5年11月28日開催)で、医学部の理念・目標や3ポリシーについて、点検・見直しの状況についての報告と、意見交換を行った。 ・令和5年度第1回カリキュラム評価委員会(令和6年3月27日書面開催)において議論を行った。
<b>今後の計画</b>
・引き続き検討と議論を進める。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・資料 B1.1-01 基礎・社会医学談話会(令和5年11月28日開催) 資料 ・資料 B1.1-02 令和5年度第1回カリキュラム評価委員会 意見要旨

<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>改善内容・現在の状況</b>
・なし
<b>今後の計画</b>
・なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・なし

## 領域 1. 使命と学修成果

### 1.3 学修成果

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・卒業時に備えておくべき能力をコンピテンスおよびコンピテンシーとして定め、6年間ですべての学生が「卒後臨床研修開始時点に期待されるレベル」に到達できるように、全科目についてコンピテンシーからみた役割を明確化している。
<b>改善のための助言</b>
・使命（理念と目標）と学修成果（ディプロマ・ポリシー／コンピテンス／コンピテンシー）の相互関係と整合性に配慮すべきである。 ・学生および教職員に学修成果を十分に周知し、理解を求めるべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・基礎・社会医学談話会（令和5年11月28日開催）で議論した。 ・令和5年度第1回カリキュラム評価委員会（令和6年3月27日書面開催）において議論を行った。
<b>今後の計画</b>
・引き続き検討と議論を進める。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・【再掲】資料 B1.1-01 基礎・社会医学談話会(令和5年11月28日開催) 資料 ・【再掲】資料 B1.1-02 令和5年度第1回カリキュラム評価委員会 意見要旨

<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>改善内容・現在の状況</b>
・なし
<b>今後の計画</b>
・なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・なし

## 領域 1. 使命と学修成果

### 1.4 使命と成果策定への参画

<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・使命と学修成果の策定に学生が参加すべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・学生の各学年代表が参加するカリキュラム評価委員会において、使命及び学習成果についての意見を聴取している。 ・直近では、令和5年度第1回カリキュラム評価委員会（令和6年3月27日書面開催）において意見を求めた。
<b>今後の計画</b>
・令和6年度以降も、学生代表を含む委員での検討を予定している。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・資料 B1.4-01 カリキュラム評価委員会 名簿 ・【再掲】資料 B1.1-02 令和5年度第1回カリキュラム評価委員会 意見要旨

<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・使命と目標とする学修成果の策定には、患者代表、地域医療機関代表、他医療職種など、より多くの広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・昨年度から継続して、カリキュラム評価委員会（医師以外の医療従事者代表、学外医療機関の代表、学外有識者、患者代表等を委員に含む）において、教育について幅広く意見を聴取している。 ・聴取した意見については、カリキュラム検討委員会等に提供し、改善のための参考資料としている。
<b>今後の計画</b>
・令和6年度以降も、幅広い関係者を含む委員での検討を予定している。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・【再掲】資料 B1.4-01 カリキュラム評価委員会 名簿 ・【再掲】資料 B1.1-02 令和5年度第1回カリキュラム評価委員会 意見要旨 ・資料 Q1.4-01 カリキュラム検討委員会への議事要旨提供

## 領域 2. 教育プログラム

### 2.1 教育プログラムの構成

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・ 入学早期から、臨床推論や医療面接の演習を行って学生の学修意欲を刺激していることは高く評価できる。
<b>改善のための助言</b>
・ なし
<b>改善内容・現在の状況</b>
・ なし
<b>今後の計画</b>
・ なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・ なし

<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・ 最新の医学・医療の知見に触れることのできる「基礎医学アドバンストコース」や「臨床医学アドバンストコース」がカリキュラムに組み込まれていることは評価できる。
<b>改善のための示唆</b>
・ なし
<b>改善内容・現在の状況</b>
・ 「基礎医学アドバンストコース」や「臨床医学アドバンストコース」を継続して実施している。
<b>今後の計画</b>
・ 今後も改善を重ねながら継続して実施していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・ 資料 Q2.1-01 医学部医学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） ・ 資料 Q2.1-02 令和 5 年度「基礎医学アドバンストコース」シラバス（抜粋） ・ 資料 Q2.1-03 令和 5 年度「臨床医学アドバンストコース」シラバス（抜粋）

## 領域2. 教育プログラム

### 2.2 科学的方法

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・臨床実習の現場で、EBMによる教育が活用されている。
<b>改善のための助言</b>
・「研究配属」で実践的な研究を学生が体験し、発表する機会を増やすべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・医学科3年次「研究配属」において、配属ごとに選抜された代表の学生／学生グループが、最終週に行われる全体の研究発表会で研究発表を行うこととしており、学年全員が参加している。研究発表会については、学生が座長となり、学生同士で議論するなど、学生自身が主体的に運営・実施している。 また、専用フォームを利用し、発表を聴いた学生が評価や感想を述べる機会を設けている。 ・研究配属終了後に、研究を更に進め、学会発表等を行って受賞する学生もいる。
<b>今後の計画</b>
・今後も「研究配属」を実施し、実施方法や内容について更なる改善を進めていく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・資料 B2.2-01 令和5年度「研究配属」シラバス ・資料 B2.2-02 令和5年度 研究配属発表会抄録集 ・資料 B2.2-03 「研究配属」研究発表 学生アンケート（抜粋） ・資料 B2.2-04 「研究配属」後学会発表・受賞学生 資料

<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・自殺要因分析など秋田県における重要な課題の研究要素をカリキュラムに含めている。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>改善内容・現在の状況</b>
・なし
<b>今後の計画</b>
・なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・なし

## 領域 2. 教育プログラム

### 2.5 臨床医学と技能

<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・ 2015 年度入学者からのカリキュラムで 74 週の臨床実習を確保している。
<b>改善のための助言</b>
・ 重要な診療科で学修する時間を十分に確保し、診療参加型臨床実習を充実すべきである。 ・ 学生に許容される医行為を明確にし、実践すべきである。 ・ 健康増進と予防医学を確実に経験させるべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・ 先進デジタル医学・医療教育学講座を設置し、学内外の関連教育医療機関と連携して、各分野の講義、演習、実習、評価における教育のデジタル化を推進し、実習の充実を図っている。
<b>今後の計画</b>
・ 今後、カリキュラム検討委員会を中心に、令和 4 年度改訂版モデル・コア・カリキュラムで示されたガイドライン等を踏まえた臨床実習の見直しを進める予定。見直しの中で更なる臨床実習の充実や、許容される医行為の明確化などについても検討する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・ 資料 B2.5-01 先進デジタル医学・医療教育学講座

<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・ 1 年次から教育プログラムの進行に合わせ、さまざまなシミュレーション教育が行われていることは評価できる。
<b>改善のための示唆</b>
・ 1 年次だけでなく、すべての学生が早期から段階的に患者と接触する機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参画を深めていくことが望まれる。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・ なし
<b>今後の計画</b>
・ なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・ なし

## 領域 2. 教育プログラム

### 2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・低学年から臨床医学と関連づけた教育を導入し、基礎医学、社会医学および臨床医学を適切な関連と配分で構成していることは評価できる。
<b>改善のための助言</b>
・行動科学の教育を臨床医学に結び付けて体系的に構成すべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・令和4年度、講座ごとに任命された教育主任をメンバーとして、「医学教育・医師養成教育の質向上タスクチーム」を立ち上げた。構成メンバーに対し、水平・垂直統合に関するアンケートを実施する等、検討を進めている。
<b>今後の計画</b>
・アンケート結果等を踏まえ、今後も水平・垂直統合について検討、推進していく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・資料 B2.6-01 医学教育・医師養成教育の質向上タスクチーム ・資料 B2.6-02 水平・垂直統合に関するアンケート

<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・選択科目として、「基礎医学アドバンストコース」、「臨床医学アドバンストコース」が設定されていることは評価できる。
<b>改善のための示唆</b>
・基礎医学、臨床医学それぞれで水平的統合をさらに進めることが望まれる。 ・基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合をさらに進めることが望まれる。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・なし
<b>今後の計画</b>
・なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・なし



### 3. 学生の評価

#### 領域 3.1 評価方法

<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1年次に外国人 SPs を含む医療面接 OSCE、動画を活用した聴診 OSCE やエコー-OSCE を導入していることは高く評価できる。</li><li>・ 2001 年から全国最大規模のステーション数で「PostCC-OSCE」を卒業試験として実施していることは高く評価できる。</li><li>・ 知識の定着をはかるため、体系的に全学年で統一試験を実施していることは評価できる。</li></ul>
<b>改善のための助言</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 低学年から、より体系的な態度評価の仕組みを構築し、実施すべきである。</li><li>・ 評価結果に対して疑義申し立て制度を明文化すべきである。</li></ul>
<b>改善内容・現在の状況</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 評価結果に対する疑義申し立て制度を明文化した（令和5年度提出年次報告書に記載済み）。</li><li>・ 令和5年度から、学外医療機関を含む全ての臨床実習で、CC-EPOC（卒前臨床実習生用オンライン臨床教育評価システム）の運用を開始した。</li></ul>
<b>今後の計画</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ CC-EPOC の利活用を進め、Mini-CEX（短縮版臨床評価法）等の普及を進めていく予定である。</li></ul>
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 資料 B3.1-01 CC-EPOC</li></ul>

<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「PostCC-OSCE」の評価者に学外臨床実習先の指導医を活用していることは評価できる。</li></ul>
<b>改善のための示唆</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 基礎医学・社会医学実習評価表はプロフェッショナリズム評価の観点为主体であり、評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。</li><li>・ 臨床実習での経験記録、実習中の mini-CEX、360 度評価等の普及を図ることが望まれる。</li></ul>
<b>改善内容・現在の状況</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ なし</li></ul>
<b>今後の計画</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ CC-EPOC の利活用を進め、Mini-CEX（短縮版臨床評価法）等の普及を進めていく予定である。</li></ul>
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ なし</li></ul>

### 3. 学生の評価

#### 領域 3.2 評価と学修との関連

<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・教育の各段階において、学修成果の到達度を評価する基準を定め、学生を評価すべきである。 ・形成的評価の有効な利用を促進し、学生の学修をさらに促進すべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・学修成果の到達度を評価する基準として、コンピテンス／コンピテンシーを定め、シラバス等に記載し周知している。 ・令和4年度に、リンク票（カリキュラムマップとコンピテンシーの紐づけを行ったもの）を整備し、令和5年度に見直しを行った。これにより、学生の能力について可視化を行い、修得状況を確認している。
<b>今後の計画</b>
・今後もリンク票の整備を進め、学生の能力可視化を行う。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・資料 B3.2-01 コンピテンス／コンピテンシー ・資料 B3.2-02 リンク票

<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・なし
<b>今後の計画</b>
・なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・なし

## 4. 学生

### 領域 4.3 学生のカウンセリングと支援

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・学修上の問題を抱える学生を早期に発見し、より手厚く支援する制度を設けるべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・なし
<b>今後の計画</b>
・令和6年度以降、学修上の問題を抱える学生のケアについて、検討と具体的な対策を進める予定。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・なし

<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・学務委員に加え、より多くの教員もカウンセリングに参加することが望まれる。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・なし
<b>今後の計画</b>
・令和6年度以降、学修上の問題を抱える学生のケアについて、検討と具体的な対策を進める予定。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・なし

## 6. 教育資源

### 領域 6.1 施設・設備

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・ シミュレーション教育センターなど、カリキュラムが適切に実施できるための施設・設備が整備されている。
<b>改善のための助言</b>
・ 学生の健康診断の受診率を改善すべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・ 健康診断の実施日程について検討し、学生が受診しやすいよう工夫を行った。また、受診の徹底について学生へ周知した。
<b>今後の計画</b>
・ 今後も学内行事等の日程を確認の上、学生の参加しやすい日程を設定するほか、学生への周知を徹底する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・ 資料 6.1-01 健康診断実施に係る通知

<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・ なし
<b>改善のための示唆</b>
・ なし
<b>改善内容・現在の状況</b>
・ なし
<b>今後の計画</b>
・ なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・ なし

## 6. 教育資源

### 領域 6.2 臨床実習の資源

<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・学外に地域包括ケアや在宅医療を経験可能な臨床実習施設が確保されている。
<b>改善のための助言</b>
・学生が適切な臨床経験を積めるように、臨床実習施設の患者数と疾患分類を分析して、充実させるべきである。 ・学生がプライマリケアを経験できる診療所等の臨床実習施設を確保すべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・CC2（5年次10月～6年次7月に実施する臨床実習）の開始前に、卒後研修に関わる県内医療機関において、3週間にわたり「秋田県研修病院実習」を実施しており、その中でプライマリケアを経験できるようにしている。
<b>今後の計画</b>
・令和5年度から運用開始したCC-EPOC（卒前臨床実習生用オンライン臨床教育評価システム）の活用を進め、経験した基本的手技や症例について分析を行い臨床実習の充実を図る予定。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・資料 B6.2-01 令和5年度「秋田県研修病院実習」シラバス（抜粋）

<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>改善内容・現在の状況</b>
・なし
<b>今後の計画</b>
・なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・なし

## 6. 教育資源

### 領域 6.3 情報通信技術

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・教職員居室、研究室等、利用者が限定される箇所で使用されている接続に認証を要しない有線 LAN においては、十分なセキュリティを確保すべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・教職員居室、研究室等、利用者が限定される箇所で使用されている接続に認証を要しない有線 LAN について、十分なセキュリティが確保されていることが確認された。状況の詳細については、別紙説明を参照。
<b>今後の計画</b>
・学内の通信ネットワークについて、引き続き十分なセキュリティを確保する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・資料 B6.3-01 学内有線 LAN のセキュリティ状況について

<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・自己学習を行うための e-learning コンテンツが整備されている。 ・学生のカルテ記載について指導医の適正な監督を受けている。
<b>改善のための示唆</b>
・なし
<b>改善内容・現在の状況</b>
・先進デジタル医学・医療教育学講座を設置し、学内外の関連教育医療機関と連携して、各分野の講義、演習、実習、評価における教育のデジタル化を推進し、学修の充実を図っている。
<b>今後の計画</b>
・今後もデジタル化を推進し、学修の充実を図る。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・【再掲】資料 B2.5-01 先進デジタル医学・医療教育学講座

## 6. 教育資源

### 領域 6.4 医学研究と学識

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>改善内容・現在の状況</b>
・なし
<b>今後の計画</b>
・なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・なし

<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・「研究配属」で実践的な研究をすべての学生が体験する機会を増やすことが望まれる。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・「研究配属」は医学科3年次必修科目となっており、全学生が参加している。 ・「研究配属」終了後に、研究を更に進め、学会発表等を行って授賞する学生もいる。
<b>今後の計画</b>
・今後も引き続き「研究配属」を実施し、学生が実践的な研究を体験する機会を設ける。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・【再掲】資料 B2.2-01 令和5年度「研究配属」シラバス ・【再掲】資料 B2.2-02 令和5年度 研究配属発表会抄録集 ・【再掲】資料 B2.2-03 「研究配属」研究発表 学生アンケート（抜粋） ・【再掲】資料 B2.2-04 「研究配属」後学会発表・受賞学生 資料

## 6. 教育資源

### 領域 6.6 教育の交流

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・国内外教育機関との交流をさらに推進すべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・2023年4月に東サラエゴ大学（ボスニア・ヘルツェゴビナ）と医学部部局間協定を締結している。 ・以下のとおり、留学や国際交流を促進するための催しを実施した。 ①【2023年6月26日】特別講演「アメリカの医学・医療からリーダーシップを学ぶ」 ②【2023年9月28日】研究プロモートセミナー「留学のすゝめ ～コールから解放される時～」 ③【2023年11月30日】留学成果報告会 ④【2023年12月11日】国際交流ランチタイムセミナー ⑤【2024年1月11日】FDセミナー「秋大生が本気になったら熱意と戦略だけでどこまで世界で戦えるのか」 ⑥【2024年2月11日】Zoomによるバーチャルミニ留学 ⑦【2024年3月6日】特別講演「幹細胞を用いた内分泌システムの再構成」
<b>今後の計画</b>
・令和6年度、医学部教員が東サラエゴ大学で現地視察を行う。また、学生の選抜を進め、在学生の留学を実施する。 ・引き続き、留学や国際交流を促進するための催しを開催する。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・資料 B6.6-01 東サラエゴ大学 協定資料 ・資料 B6.6-02 特別講演「アメリカの医学・医療からリーダーシップを学ぶ」 ・資料 B6.6-03 研究プロモートセミナー「留学のすゝめ ～コールから解放される時～」 ・資料 B6.6-04 留学成果報告会 ・資料 B6.6-05 国際交流ランチタイムセミナー ・資料 B6.6-06 FDセミナー「秋大生が本気になったら熱意と戦略だけでどこまで世界で戦えるのか」 ・資料 B6.6-07 Zoomによるバーチャルミニ留学 ・資料 B6.6-08 特別講演「幹細胞を用いた内分泌システムの再構成」



質的向上のための水準 判定：適合
特記すべき良い点（特色）
・ 医学部医学科国際交流基金より、海外派遣学生全員に旅費その他必要経費を支給している。
改善のための示唆
・ なし
改善内容・現在の状況
・ なし
今後の計画
・ なし
改善状況を示す根拠資料
・ なし

## 7. 教育プログラム評価

### 領域 7.1 教育プログラムのモニタと評価

<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・2020年度に「医学部教育評価・IRセンター」と「カリキュラム評価委員会」が発足し、教育プログラム評価を実施する体制が整えられた。
<b>改善のための助言</b>
・学生の進歩について、試験の成績だけでなく、コンピテンス、コンピテンシーの達成レベルの観点から教育プログラムの評価を行うべきである。 ・カリキュラムの評価に関わる委員会として「評価・IR委員会」と「カリキュラム評価委員会」があり、より効率的な評価が適切に実施できるよう体制を整備すべきである。 ・「カリキュラム評価委員会」は2021年3月3日に第1回が開催されたばかりであり、実質的に活動させて教育プログラム評価を実施し、その結果をカリキュラムに確実に反映させるべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・令和4年度に、リンク票（カリキュラムマップとコンピテンシーの紐づけを行ったもの）を整備し、令和5年度に見直しを行った。これにより、学生の能力について可視化を行い、修得状況を確認している。
<b>今後の計画</b>
・引き続きリンク票の見直しと能力の可視化を進める。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・【再掲】資料 B3.2-01 コンピテンス／コンピテンシー

<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・長期間で獲得される学修成果、社会的責任について、定期的に教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・令和4年度、講座ごとに任命された教育主任をメンバーとして、「医学教育・医師養成教育の質向上タスクチーム」を立ち上げた。改訂版モデル・コア・カリキュラムについて、教育主任を中心に意見の集約や教育内容の整理を行っている。
<b>今後の計画</b>
・「医学教育・医師養成教育の質向上タスクチーム」において、引き続き教育内容の評価等を進める。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>

・【再掲】資料 B2.6-01 医学教育・医師養成教育の質向上タスクチーム

## 7. 教育プログラム評価

### 領域 7.2 教員と学生からのフィードバック

<b>基本的水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・卒業時アンケート調査だけでなく、教育プログラムについて、教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・従前より実施している各種授業評価アンケートのほか、「研究配属」（医学科3年次実習）でも学生アンケートを実施し、教員へ結果をフィードバックして、次年度の改善に活用している。 ・令和5年度から、学外医療機関を含む全ての臨床実習で、CC-EPOC（卒前臨床実習生用オンライン臨床教育評価システム）の運用を開始した。
<b>今後の計画</b>
・引き続き教育プログラムについて、フィードバックを収集・分析し、改善を進める。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・【再掲】資料 B3.1-01 CC-EPOC

<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・教育プログラムに関する教員と学生からの系統的なフィードバックを分析し、教育プログラムの改善につなげることが望まれる。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・教員と学生代表を委員としている「カリキュラム評価委員会」において、卒業時アンケートの結果を定期的に検討している。結果については「カリキュラム検討委員会」へ提供し、改善に役立っている。
<b>今後の計画</b>
・引き続き教育プログラムについて、フィードバックを収集・分析し、改善を進める。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・【資料】資料 Q1.4-01 カリキュラム検討委員会への議事要旨提供

## 7. 教育プログラム評価

### 領域 7.4 教育の関係者の関与

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・教育プログラムのモニタと評価に関わるカリキュラム評価委員会に、教員、各学年学生代表が含まれている。
<b>改善のための助言</b>
・なし
<b>改善内容・現在の状況</b>
・なし
<b>今後の計画</b>
・なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・なし

<b>質的向上のための水準 判定：部分的適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・他医療職種、患者、地域医療の代表者など、広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・昨年度から継続して、カリキュラム評価委員会（医師以外の医療従事者代表、学外医療機関の代表、学外有識者、患者代表等を委員に含む）において、教育について幅広く意見を聴取している。 ・聴取した意見については、カリキュラム検討委員会等に提供し、改善のための参考資料としている。
<b>今後の計画</b>
・令和6年度以降も、幅広い関係者を含む委員での検討を予定している。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・【再掲】資料 B1.4-01 カリキュラム評価委員会 名簿 ・【再掲】資料 Q1.4-01 カリキュラム検討委員会への議事要旨提供

## 8. 統轄および管理運営

### 領域 8.1 統轄

<b>基本的水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための助言</b>
・カリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会は独立性を担保した組織構成とすべきである。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・カリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会について、独立性を保っている。議事録を残し、透明性を確保するとともに複数の委員会で情報共有している。
<b>今後の計画</b>
・引き続き各委員会の独立性を保っていく。
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・【再掲】資料 B1.4-01 カリキュラム評価委員会 名簿 ・【再掲】資料 Q1.4-01 カリキュラム検討委員会への議事要旨提供

<b>質的向上のための水準 判定：適合</b>
<b>特記すべき良い点（特色）</b>
・なし
<b>改善のための示唆</b>
・各委員会・会議等の決定事項の透明性を確保することが望まれる。
<b>改善内容・現在の状況</b>
・なし
<b>今後の計画</b>
・なし
<b>改善状況を示す根拠資料</b>
・なし